

# 82 期ナカノブー建設 年間重点事項

## 1. 2023 年度 全社安全衛生目標

※目標値 ・度数率 0.40 以下 ・強度率 0.02 以下

## 2. 重点方針

- (1) 墜転落災害・飛来落下災害と重機（クレーン・車輛系）災害の根絶
- (2) 公衆災害防止の確実な事前計画と対策の徹底
- (3) リスクアセスメントの確実な実践と、適切な指揮系統による再下請負工事
- (4) 安全教育、教育支援の更なる充実
- (5) 健康に配慮した職場環境形成の促進

## 3. 重点施策

- (1) 墜転落災害・飛来落下災害と重機（クレーン・車輛系）災害の根絶
  - ① 『開口部ゼロ』対策の実践と指差呼称、音声標識等の活用による注意喚起の継続（落下防止設備の先行設置と維持管理の強化）
  - ② 玉掛け作業時の始業前点検・正しい玉掛け及び吊荷直下の立入禁止の徹底
  - ③ 重機区画と誘導者配置の徹底、作業計画に基づく安全対策の確実な実施
- (2) 公衆災害防止の確実な事前計画と対策の徹底
  - ① 激甚化する気象災害も考慮した公衆災害防止対策の事前計画と確実な実施
  - ② 公衆災害防止設備（仮囲い・ゲート周辺・アサガオ等）の確実な設置
  - ③ 第三者安全誘導の徹底
- (3) リスクアセスメントの確実な実践と、適切な指揮系統による再下請負工事
  - ① 安全基本 3 行動『ひと声かけ、現地 KY、ワンポイント指差し呼称』実践の徹底
  - ② 適切な指揮系統（安全衛生責任者・作業主任者等）による安全管理の徹底
  - ③ 新規入場 7 日以内、未熟練労働者、外国人労働者への作業中の指導及び作業確認の強化
- (4) 安全教育、教育支援の更なる充実
  - ① 1 次協力会社から 2 次・3 次会社（一人親方含む）及外国人労働者への安全衛生教育の支援充実
  - ② 若手技術社員への安全衛生教育強化のため、本部及び拠店による安全衛生教育の強化
- (5) 健康に配慮した職場環境形成の促進
  - ① 4 週 8 閉所実現による心身の健康確保
  - ② 無記名ストレスチェックに基づく、より快適な職場環境への改善実施
  - ③ 健康 KY による健康状態の把握と熱中症対策の実施（空調服着用・体調不良時の報告徹底）

# 2023(令和5)年10月重点目標

## **【倒壊・崩壊災害の防止、全国衛生週間】**

- ①足場・型枠支保工等の仮設構造物の組立にあたっては、特に水平方向の安全性を十分に考慮して、荷重及び外力を計算し、これに耐えられる強度を確保する。
- ②仮設構造物を組立てるときは、作業中の墜落、部材の落下、構造物の倒壊等を防止するため、作業手順を明確に定め手順に基づくリスクアセスメントを実施し、特定したリスク低減措置は確実に実施する。
- ③型枠支保工を組立てるときは、規格に基づき計画図を作成し、前項と同様に作業手順・リスクアセスメントを実施する。特定したリスク低減措置は確実に実施する。  
また、支保工のパイプサポート足元の滑動防止は、サポートメイトを使用してはならない。根がらみパイプ、敷板に釘打ち等で確実にを行う。
- ④以下の作業等については、作業主任者の直接指揮により作業させる。また、作業主任者に墜落制止用器具・保護帽等の使用状況を監視させる。
  - ・型枠支保工の組立作業。
  - ・建築物または塔で高さが5 m以上の鉄骨の組立または解体等の作業。
  - ・橋梁の上部構造で高さが5 m以上、または橋梁の支間が30m以上の鋼製のものの架設、解体または変更の作業。
  - ・橋梁の上部構造で高さが5 m以上、または橋梁の支間が30m以上のコンクリート造のものの架設、または変更の作業。
- ⑤仮設に使用する材料は、事前に点検して著しい損傷、変形、または腐食のあるものは使用しない。
- ⑥杭打ち機、クローラークレーン等の組立・解体・変更、または移動は、作業指揮者を選任し、その者の直接指揮により作業させる。
  - ※ クローラークレーン組立時の点検表を活用する。
- ⑦以下の作業等については、関係者以外の立入禁止措置を行い、強風・大雨・大雪等の悪天候時には、作業を中止する。（安全法令ダイジェストP241、243、244 参照）
  - ・建築物または塔の骨組みの組立・解体・変更の作業。
  - ・型枠支保工の組立・解体・変更の作業。

- ・足場の組立・解体・変更の作業。
- ・金属製、またはコンクリート造の橋梁の上部構造の架設・解体・変更の作業。

⑧ 足場には、壁つなぎ・控え・筋かい・水平つなぎ、また型枠支保工には、筋かい・水平つなぎを設置して倒壊防止の措置を講じる。

- ・足場の壁つなぎとして、単管パイプ＋クランプを使用する場合は、引抜き荷重を考慮し、クランプを増やす。（すてクランプを取り付ける）
- ・鉄骨H形鋼から壁つなぎをとる場合は、H鋼フランジ両側をクランプで固定する。
- ・ブラケット付一側足場、単管抱き足場の場合、固定ベース金具より300～500mmの高さに壁つなぎを設ける。

⑨ 型枠支保工については、コンクリートの打設方法、及び型枠強度の各部の検討を行い、必要な措置を講じる。

⑩ コンクリート擁壁等構造物に近接する箇所で掘削作業を行うときは、構造物の倒壊を防止する為の土止め支保工で補強する等、倒壊防止の措置を講じる。

⑪ コンクリート造等の解体作業は、構造物の状況等の調査に基づき作業手順・切断方法・控えの設置方法等の具体的な危険防止措置を盛り込んだ作業計画を定めて実施する。

- ・SRC造の場合は、鉄骨継手位置を調査し、解体時のボルト飛散等にも注意する。

※ 作業所関連書類 施工計画事前検討会チェックリスト参照

⑫ 全国労働衛生週間期間中の行事を、計画し実施する。

- ・経営トップ、拠点長による安全衛生パトロールの実施
- ・安全衛生大会の開催
- ・健康診断受診状況確認
- ・安全衛生教育の実施等